


文・編集・発行 / 斉藤新緑 Tel (0776-82-1141) Fax (0776-82-2261)  
【斉藤新緑事務所】 〒913-0046 福井県坂井市三国町北本町2-1-20 京福三国ビル2F  
【e-mail】 sinryoku@aurora.ocn.ne.jp  
【ホームページ】 http://www.ss.apdw.jp

# ほっとらいん



人に、まちに、いま、  
元気の種をまこう。

## VOL. 69

最低にして最高の道

高村光太郎

もう止さう。  
ちひさな利慾とちひさな不平と、  
ちひさなぐちとちひさな怒りと、  
さういふうるさいけちなものは、  
ああ、きれいにもう止さう。  
わたくし事のいざこざに  
見にくい皺を縦によせて  
この世を地獄に住むのは止さう。  
こそこそと裏から裏へ  
うす汚い企みをやるのは止さう。  
この世の抜駆けはもう止さう。  
さういふ事はともかく忘れて  
みんなと一緒に大きく生きよう。  
見えもかけ値もない裸のところで  
らくらくと、のびのびと、  
あの空を仰いでわれらは生きよう。

# ワンダロップ

「青い空は青いままで子供らに伝えたい。」  
人々に愛が通い合い、いつしか世界が一つになったらいいと思う。などと、かつて若かりし頃、淡い平和心を持っていた。

日本は、唯一の被爆国であり、広島・長崎の惨劇を繰り返さないためにも、核兵器廃絶の先頭に立ち、世界平和を築く牽引国となるべきだ。しかし、国連では、いつも日本は、原爆を投下したアメリカと同一歩調を取っていた。

日本が戦争に負けて、アメリカの家来になった。「日米安保」とは、その支配下を継続することだと思つた。

ベルリンの壁が壊れ、ソ連が崩壊し、米・ソ両大國対決の冷戦が終了して、これで、やっと世界平和が訪れると思つた。

しかし、現実には、民族間の紛争や石油資源など利権を求めて戦争が仕掛けられ、戦禍は絶えない。兵器を製造して、販売する軍事産業があれば、古くなつた兵器の在庫一斉セールも必要となり、どこかでわざと「大義」をつくって戦争が必要となる。

社会主義國が倒れ、「自由」の名の下に、「何でもあり」と、資本主義が欲望むき出しに暴走すれば、地の果てまで止まらなくなる。

グローバリズムが浸透し、世界大競争時代に突入している。ありとあらゆるものが「商品」で、人間すべてが「消費者」で、それって幸福なのか。画一的で、経済一辺倒で、顔がなくて、世の中が、うすっぺらで、つまらなくなつてきたように思える。

日本には、「足ることを知る」、「求むるあれば万事窮す」、欲望を肥大化すればするほど、幸福から遠ざかるという教えがある。

一輪の花をもつて、満開の桜を心に描く「わび・さび」という美もある。

日本には、「足ることを知る」、「求むるあれば万事窮す」、欲望を肥大化すればするほど、幸福から遠ざかるという教えがある。

一輪の花をもつて、満開の桜を心に描く「わび・さび」という美もある。

その日本文化を、グローバルスタンダード（世界基準）にできれば、幸福は無尽蔵になる。

しかし、その日本は、「無力的な日本」として、諸外国からの格好の餌食のようだ。

景気回復や経済成長なしに、政府支出だけを肥大化させ、税収の二倍の支出を、消費税二〇％分に相当する国債で穴埋めし

ている異常な国。埋蔵金の発掘や無駄の削減など、この期に及んでは問題の本質ではないはずだ。

極めて深刻な財政状況も野放しにされ、誰も決断せず、誰も責任を取らない。

日本の返済能力が心配され始め、日本国債の格付けが落ちた。このままでは…。

「グローバルに考え、ローカルに行動しよう」、(地球的な規模で考え、足元から行動しよう)とスタートした議員活動20年。

しかし、考えれば考えるほど、無力感を感じ、つらくなる。が、どうしようもない。私の与えられた場所で、私のやれることを精一杯やるだけだ。

▼ワンダロップ（ハチドリのみとしく）  
山火事で森が燃えたとき、一匹のハチドリがくちばしで水のしずくを運んで火を消そうとした。「そんな事をして、いったい何になるんだ」と笑われたとき、ハチドリは「私は私のできることをしているだけだ」と答えたという。一つの所に命を懸けると書いて「二所懸命」。

▼ワンダロップ（ハチドリのみとしく）  
山火事で森が燃えたとき、一匹のハチドリがくちばしで水のしずくを運んで火を消そうとした。「そんな事をして、いったい何になるんだ」と笑われたとき、ハチドリは「私は私のできることをしているだけだ」と答えたという。一つの所に命を懸けると書いて「二所懸命」。

▼ワンダロップ（ハチドリのみとしく）  
山火事で森が燃えたとき、一匹のハチドリがくちばしで水のしずくを運んで火を消そうとした。「そんな事をして、いったい何になるんだ」と笑われたとき、ハチドリは「私は私のできることをしているだけだ」と答えたという。一つの所に命を懸けると書いて「二所懸命」。

▼ワンダロップ（ハチドリのみとしく）  
山火事で森が燃えたとき、一匹のハチドリがくちばしで水のしずくを運んで火を消そうとした。「そんな事をして、いったい何になるんだ」と笑われたとき、ハチドリは「私は私のできることをしているだけだ」と答えたという。一つの所に命を懸けると書いて「二所懸命」。

▼ワンダロップ（ハチドリのみとしく）  
山火事で森が燃えたとき、一匹のハチドリがくちばしで水のしずくを運んで火を消そうとした。「そんな事をして、いったい何になるんだ」と笑われたとき、ハチドリは「私は私のできることをしているだけだ」と答えたという。一つの所に命を懸けると書いて「二所懸命」。

▼ワンダロップ（ハチドリのみとしく）  
山火事で森が燃えたとき、一匹のハチドリがくちばしで水のしずくを運んで火を消そうとした。「そんな事をして、いったい何になるんだ」と笑われたとき、ハチドリは「私は私のできることをしているだけだ」と答えたという。一つの所に命を懸けると書いて「二所懸命」。

▼ワンダロップ（ハチドリのみとしく）  
山火事で森が燃えたとき、一匹のハチドリがくちばしで水のしずくを運んで火を消そうとした。「そんな事をして、いったい何になるんだ」と笑われたとき、ハチドリは「私は私のできることをしているだけだ」と答えたという。一つの所に命を懸けると書いて「二所懸命」。

▼ワンダロップ（ハチドリのみとしく）  
山火事で森が燃えたとき、一匹のハチドリがくちばしで水のしずくを運んで火を消そうとした。「そんな事をして、いったい何になるんだ」と笑われたとき、ハチドリは「私は私のできることをしているだけだ」と答えたという。一つの所に命を懸けると書いて「二所懸命」。

# 2月定例会

2月定例会は、2月16日から3月7日の会期で、平成23年度当初予算、一般会計総額466.8億円が提案されました。今年4月に知事と県議会議員の選挙が行われます。新しい政策に基づく事業は、4月の選挙で当選した知事と県議会議員が議論を重ね、6月の補正予算で予算化していくことになります。このため、当初予算は最低限必要な事業だけを計上する「骨格予算」です。

## 当初予算の解説

### 1 予算の全体像

◇ 予算の規模  
23年度の一般会計予算（企業局や病院など経営的な経理をする部門を除いた普通の予算）は466.8億円と前年度と比べて6.6%の減少となっています。前回選挙時（平成19年度）の当初予算は前年度と比べて9.5%の減少でした。経済・雇用対策を盛り込んでいる分だけ今回は減少幅が小さくなっています。

### ◇ 経済・雇用対策の規模

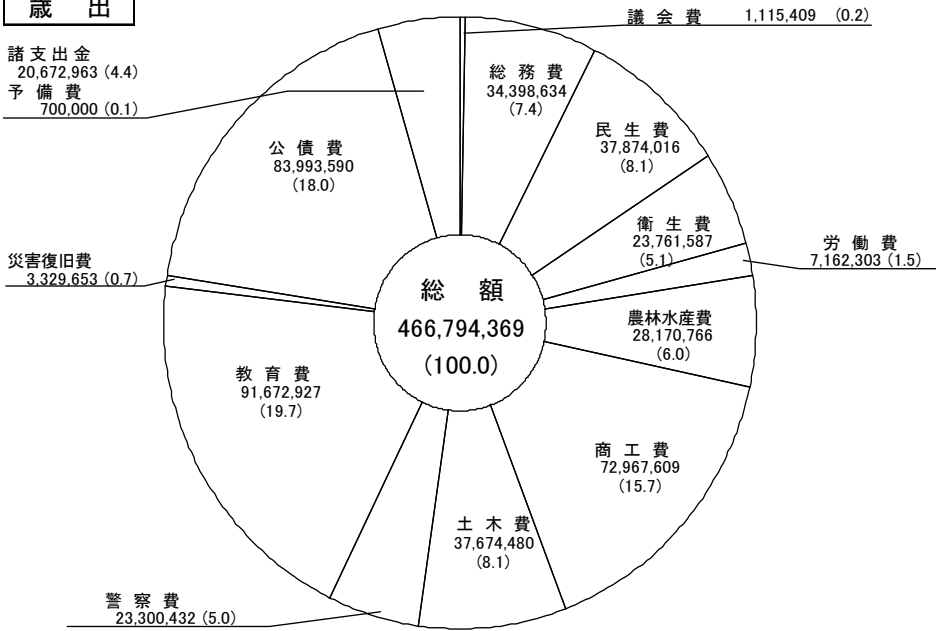
当初予算と2月補正予算を合わせた経済・雇用対策の事業規模は99.0億円、予算上の規模は33.4億円

で昨年度とほぼ同じ規模となっています。事業規模には、中小企業などへの融資枠が含まれますので、予算上の規模よりも大きくなります。対策としては99.0億円が実際に効果を発揮する額です。

県内の経済情勢は一部に持ち直しの動きが見られると報じられています。が、中小企業などにはその実感はないという声が大勢です。全国トップレベルにあるという雇用環境についても、新規学卒者をはじめめとして、希望どおりの就職が困難な状況にあります。

県民の実感に応える経済・雇用対策となるよう、議会ですっかり審議を行ってまいります。

### 歳出



### ◇ 歳入と県の財政

福井県の歳入で一番大きいのは地方交付税です。地方交付税は、税収で支出を賅うことのできない自治体に国が交付するものです。補助金とは異なり、自治体が自由に使うことのできる財源です。この地方交付税は昨年度を90億円上回る125.6億円が計上されています。県税収入も法人2税を中心に回復するという見込みから、昨年度を56億円上回る86.1

億円となっています。これらとは反対に、借金である県債収入は21.2億円の減少です。これは、地方交付税の総額が不足する場合に発行することが認められる「臨時財政対策債」が大幅に減少すると見込んでいるからです。「臨時財政対策債」を返済するためのお金は、地方交付税によって国から全額交付されることになっています。しかし、将来の交付税を前借りしているようなものです。また、財政が厳しい中、本日に国が

全額払ってくれるのかシビアに考えなければなりません。

### ◇ 県の財政は

現在、景気の低迷によって税収が落ち込み、国、地方自治体ともに苦しい財政状況にあります。財政破綻というようなことにならないよう、福井県の財政に目を光らせていることが議会の大きな仕事の一つです。県は20年2月に「新行財政改革実行プラン」を策定し、22年度末の基金残高（税収が落ち込んだ場合に切り崩す貯金）の目標を287億円に設定していました。これに対しては、39.5億円と目標を上回る貯金を確保できる見込みです。

一方、借金である県債残高は、目標を82.11億円に設定していましたが、それを60.0億円余りも超える88.13億円となる見込みです。県民1人につき100万円以上の借金をしている計算になります。さきほどの「臨時財政対策債」を除くと目標を下回っているとのことです。借金の返済に変わりはありません。これ以上借金がが増えて、子どもや孫の世代に負担を強いることがないよう厳しく監視していきます。

### 2 予算の内容

#### ◇ 経済・雇用対策

それでは23年度当初予算案に盛り込まれている事業をみていきます。骨格予算である今回の予算の中心となっているのは「経済・雇用対策」です。「雇用対策」「中小企業対策」「県内経済の活性化」「県民生活の安心確保」の4つがその柱となっています。

(1) 雇用対策  
まず、失業者対策として「緊急雇用創出臨時交付金」と「ふるさと雇用再生特別交付金」を活用し、年間3200人の雇用を創出することとしています。

(2) 中小企業対策  
資金繰り支援として、中小

企業への融資枠が昨年度と同額の56.0億円確保されています。融資実績からみると金額的には十分ですが、企業への制度の周知と迅速かつ柔軟な融資の実行が望まれます。今年度の9月補正で創設した新たな事業展開のための設備投資に対する利子補給は継続されます。

この他にも、建設業や製造業の中小企業が環境やエネルギーなど成長分野へ進出するための製品開発、販路開拓のための補助金が盛り込まれています。県では中小企業の積極的な投資に期待しているようです。

(3) 県内経済の活性化  
公共事業は、国庫関連事業（直轄、補助）が35.5億円で前年度の7割、県単独事業が51億円で前年度の5割となっています。

2月補正予算では、国の追加経済対策の財源を活用して14億円の県単独事業が追加されています。

当初予算は骨格予算です。で、公共事業費も抑えてあります。必要な事業費は選挙後の補正予算で計上し、景気の底上げを図っていきます。

また、国の森林整備加速化・林業再生事業費補助金が追加交付され、「緊急森林整備基金」の積み増しが行われます。こ

の基金を財源として、森林の間伐や作業道の整備を行う事業が盛り込まれています。

経済の活性化を目指すのであれば、公共事業はできるだけ早く執行していくことが必要です。県内企業が受注できるように配慮が必要でしょう。

(4) 県民生活の安心確保

国の補正予算で消費者行政やDV対策、知の地域づくりなどに活用する「住民生活に光をそそぐ交付金」が創設されます。これを受けて、消費生活センターの強化やDV被害者のための環境整備、学校図書館の充実を図る事業が盛り込まれています。

1学級40人から35人に、中学2、3年生が1学級33人から32人に引き下げられます。これによって、福井県は国の基準を444人上回る教員の追加配置が必要になります。学力向上に相当力を入れていることが窺えます。また、児童、生徒の心の悩み相談に対応するスクールカウンセラーを増員しています。これまで小学校には48人(21校)のカウンセラーが配置されていましたが、それを60人(45校)に増やして相談体制の充実を図っています。

学校基本調査によると、福井県には不登校の子どもが約800人(小中学校)います。全国的に多いほうではありませんが、応急的な対応だけでなく、楽しく学べる学校づくりにも力を入れてほしいと思っています。

急速な拡大が見込まれており、原子力発電は各国が目指しています。国際的にも重要な機能となることを期待できます。また、今年3月には陽子線がん治療センターが開院します。これに伴い、県民に対する治療費や嶺南地域から通う人のための交通費を助成するための経費が盛り込まれています。何事も最初が肝心ですので、運営に関しては議会でもしっかりとチェックしていくつもりです。

農業関係では、戸別所得補償制度の本格実施に合わせ、水田への畜産用飼料米の作付けに対する新たな助成制度が盛り込まれています。飼料の確保は食料問題の重要な課題ですが、戸別所得補償制に関しては、国の政策理念の転換についてきちんと農家に説明し、理解が得られるよう努力していかねければなりません。そうでなければ、所得補償に付随する事業も単なるバラマキしか見えなくなりますので注意が必要です。

鳥獣害対策に関しては、金網柵の整備延長を今年度よりも31キロメートル増やしています。有害獣の捕獲経費への支援も年間8500頭から12000頭に拡大し、被害防止に力を入れていくこととしています。また、新たに環境保全型農業への支援制度も盛り込まれています。化学肥料や農薬を5割以上減らす農家に10ヘクタール当たり8000円の助成を行う制度です。日本の農業は、TPPへの参加など、大きく揺れています。国の動きに振り回されず、福井県の農業政策を確立していきたいのです。

ありませぬ。しかし、中心となっている経済対策はこれまでの継続事業がほとんどを占めています。大胆で目新しい対策が盛り込まれていないのは残念です。昨年12月に県議会で可決した「福井県民の将来ビジョン」に関連した事業が盛り込まれていないのも非常に寂しい気がします。議決を得ているのですから、選挙に関係なく何らかの形を県民に見せるべきでしょう。財政に関しては、県債の発行(借金が公共事業費のわりに多いように感じます。金利が低いとはいえ、節度ある財政運営が求められます。また、民主党政権になって、基金を財源とした事業が急速に増えています。基金の財源は国が交付するので県の裁量が増えるのはいいことです。しかし、本来、国が考えて実行すべきものまで丸投げすべきではありません。基金の額がかなり膨らんでいますので、使い道については議会で監視していきます。いずれにしても、23年度予算の全体が見えるのは、選挙後の補正予算を計上してからです。補正予算では、福井県の将来を見据えた力強い政策を打ち出すことに期待したいと思います。

これらはいずれも県民生活に密接に結びつく事業です。私は「行政は最大のサービス産業」だと思っています。省庁の枠にとらわれず県民生活を守るという強い使命感を持って事業を進めてもらいたいものです。

(1) 原子力人材の育成

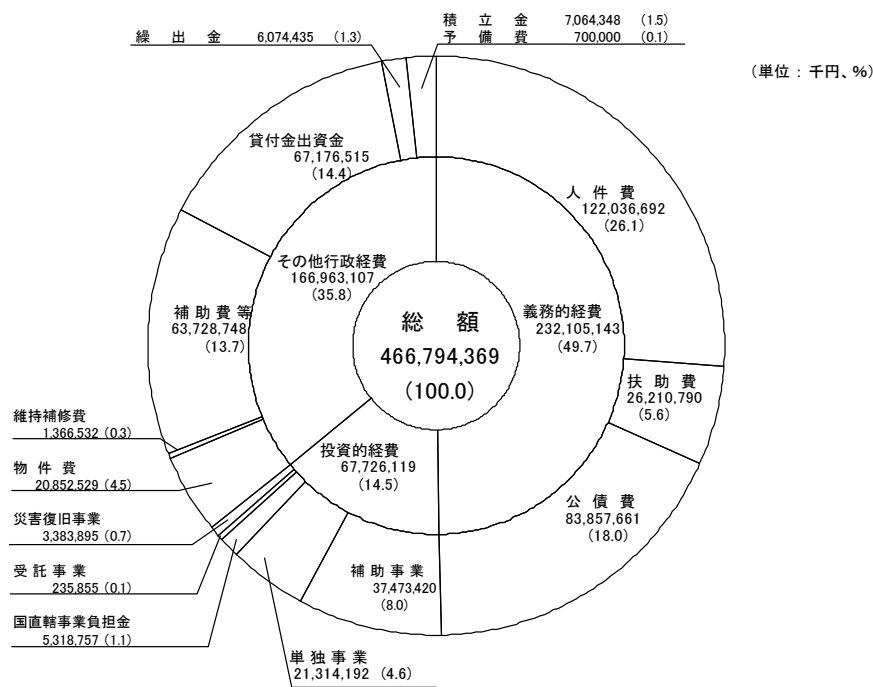
また、国の交付金を財源として、市町が行う子宮頸がん予防ワクチンの接種に対する助成制度の創設が盛り込まれました。市町では先行して助成を行っていただきましたので、やっと県も腰を上げたという感じです。

産業の関係では、今年4月に若狭湾エネルギー研究センターに開設される福井県国際原子力人材育成センターの運営費が新たに盛り込まれています。福井県国際原子力人材育成センターは、国内外から研修生を受け入れて原子力人材を育成する機関で、県が17年に策定したエネルギー研究開発拠点化計画の目玉の一つです。アジアではエネルギー需要の

◇ 教育政策

教育では、県独自の学級編制基準を引き下げて少人数学級を進めています。小学校1年生が

性質別歳出予算構成表(一般会計)



(単位: 千円、%)

(3) 観光関係

観光関係では、NHK大河ドラマ「江〜姫たちの戦国〜」の放送に合わせたイベントの開催や観光PR活動の経費が盛り込まれています。

大河ドラマは、これまでも地元で大きな経済効果をもたらしてきました。前回の龍馬伝では、高知県に535億円の経済効果があったそうです。今回は福井県にとって、その魅力を全国に発信する絶好の機会です。お江は嶺北と嶺南の双方に深い関わりのある人物です。福井県が一体となった盛り上がりを見守っています。

県土政策では、福井港を利用する企業のための助成制度が拡充されています。これまでの制度では、利用回数に応じて助成が行われていたが、新しい制度では取扱貨物量に応じた助成になります。福井港は12年に重要港湾から地方港湾に格下げされましたが、苦勞の末に開港法上の開港を勝ち取り、無検疫港の指定を受けた経緯があります。今回盛り込まれている事業は既存事業の拡充ですので、新しい利用拡充策の実施についても強く求めています。一方、敦賀港の関係では、港を利用する県内企業に対し、荷物の量に関わらず利用実績に応じて助成する制度が新たに盛り込まれています。今年の夏頃には、国が貿易や旅客航路の中心として整備する日本海側の拠点港を選定することになっていきますので、指定を受けることができよう部局の枠を超えて取組むことが必要でしょう。

◇ 県土政策

県土政策では、福井港を利用する企業のための助成制度が拡充されています。これまでの制度では、利用回数に応じて助成が行われていたが、新しい制度では取扱貨物量に応じた助成になります。福井港は12年に重要港湾から地方港湾に格下げされましたが、苦勞の末に開港法上の開港を勝ち取り、無検疫港の指定を受けた経緯があります。今回盛り込まれている事業は既存事業の拡充ですので、新しい利用拡充策の実施についても強く求めています。一方、敦賀港の関係では、港を利用する県内企業に対し、荷物の量に関わらず利用実績に応じて助成する制度が新たに盛り込まれています。今年の夏頃には、国が貿易や旅客航路の中心として整備する日本海側の拠点港を選定することになっていきますので、指定を受けることができよう部局の枠を超えて取組むことが必要でしょう。

3 全体の感想

今回の予算は骨格予算ですので、特徴のある事業があまり盛り込まれていないことは仕方がありません。しかし、中心となっている経済対策はこれまでの継続事業がほとんどを占めています。大胆で目新しい対策が盛り込まれていないのは残念です。昨年12月に県議会で可決した「福井県民の将来ビジョン」に関連した事業が盛り込まれていないのも非常に寂しい気がします。議決を得ているのですから、選挙に関係なく何らかの形を県民に見せるべきでしょう。財政に関しては、県債の発行(借金が公共事業費のわりに多いように感じます。金利が低いとはいえ、節度ある財政運営が求められます。また、民主党政権になって、基金を財源とした事業が急速に増えています。基金の財源は国が交付するので県の裁量が増えるのはいいことです。しかし、本来、国が考えて実行すべきものまで丸投げすべきではありません。基金の額がかなり膨らんでいますので、使い道については議会で監視していきます。いずれにしても、23年度予算の全体が見えるのは、選挙後の補正予算を計上してからです。補正予算では、福井県の将来を見据えた力強い政策を打ち出すことに期待したいと思います。

### ■制定した4年間の議員提出条例

1、福井県行政に係る基本的な計画について議会の議決事件と定める条例（議会の議決権の拡大をする条例）

【条例の主な内容】

- ・ 県行政に係る基本的な計画の策定等に対する議会の議決
- ・ 計画変更に関する議会による知事への意見の具申

2、福井県議会議員の政治倫理に関する条例（議員の政治倫理を定めた条例）

【条例の主な内容】

- ・ 政治倫理基準の遵守
- ・ 県等が発注する工事等の請負等に関する制限
- ・ 福井県議会政治倫理審査会の設置
- ・ 審査結果に基づく必要な措置

3、福井県地産地消の推進に関する条例（福井県議会初の政策条例）

【条例の主な内容】

- ・ 県の責務と市町、生産者、事業者、県民の役割
- ・ 地産地消推進計画の策定
- ・ 地産地消に関する情報の提供と県民の意識啓発のための日の制定
- ・ 県の施設等における県内農産物の優先使用
- ・ 食育に関する施策との連携
- ・ 地産地消に関する施策の実施状況の公表

4、福井県森づくり条例（政策条例）

【条例の主な内容】

- ・ 県の責務と市町、森林所有者、森林組合、事業者、県民の役割
- ・ 森づくりに関する基本計画の策定
- ・ 森づくりに関する理解の促進
- ・ 福井県森づくりの日（6月第1日曜日）の制定
- ・ 県民の参加による森づくりの推進
- ・ 森づくりに関する施策の推進のための財政上の措置
- ・ 森づくりの状況等の公表

5、福井県中小企業振興条例（政策条例）

【条例の主な内容】

- ・ 県による中小企業振興施策の総合的な策定、実施
- ・ 中小企業者の経営の向上、改善のための努力
- ・ 社会全体で中小企業者を支援するための県民等の理解と協力
- ・ 中小企業振興施策の基本方針

# 4年間で波乱含みの幕開けとなりまし

「強くてやさしいまちを創る」を

主テーマに、「歩いていける範囲に生活圏を取り戻そう」、「県民の最終意思決定機関として闘う県議会をつくります」を公約しての4年間でふり返ります。

車社会になって、郊外にアメリカ型の大型ショッピングセンターが立ち並び、街中の商店街が減少し、空洞化が進んできました。グローバルゼーション、インターネット社会になって、農山漁村といえども地域のつながりが希薄になってきました。

地域で採れたものを地域で消費する、地域で売っているものを地域で買い支えるといった地域循環型の経済といったものを重視しないと、地方がどんどん衰退し、過疎化していきます。

そういう危機意識に基づき、県議会が単に知事からの提案を待ってそれを追認するだけの形式的なセレモニー（儀式）機関でなく、自らが提案して創る議会、より良いものをつくる積極果敢な県政をめざした4年間の目標でした。

第16次議会（この4年間）は、開始早々、自民党派が二つになっ

て、波乱含みの幕開けとなりました。

まず、自民党新政会の幹事長としての1年半をふり返ります。

自民党派が二つになったので、これを議会を刷新する機会として、他会派と連携し、積極的な議会をめざして、これまで、皆無だった議員立法とも言べき、議会側から条例を提案する取り組みを行いました。

その1が、議員の兼業禁止など政治倫理を定めた「福井県議会議員の政治倫理に関する条例」。

その2が、「福井県行政に係る基本的な計画について議会の議決事件と定める条例」で、県の個別計画などが矢継ぎ早に一方的に作成されて一人歩きするので、基本的な計画は議会の議決を要することとした議会の議決権の適用範囲を拡大した条例です。

その3が、食料自給率40%を割り込んだのを受け、福井県議会初の政策条例「地産地消推進条例」です。

議会側から条例を作って、県の政策を

推進するということです。

県の政策は、行政側が必要に応じて条例を定め、議会側に提案するのが常です。行政側の特権意識のある分野に、議会が条例を作って、行政側に執行させるわけですから随分と苦労しました。

福井県議会史上初となったこともあって、行政側の強力な抵抗やマスコミからのバッシングなど大変でしたが、それらを乗り越え、議会が政策条例をつくることに抵抗がなくなり、スムーズになりました。

その4が、2番目の政策条例となった「森づくり条例」。

また、政務調査費の規定を見直し、1円からの領収書を添付して、情報公開してきました。

その他、多くの議会ルールを見直すなど、画期的な県議会となりました。

その後、党派間で多数派工作などギクシャクしたため、改めて自民党派の一本化を行い、自民党派幹事長を務め



その後、党派間で多数派工作などギクシャクしたため、改めて自民党派の一本化を行い、自民党派幹事長を務め

した。

この間、地産地消推進の企業版とも言えるべき、「地元の仕事は地元の企業で」と、中小企業推進条例の制定などもできました。

さらに、知事から提案のあった副知事二人制の議案については、全国都道府県の人口数から見ても積極的な必要性は認められず、また総務省（旧自治省）からの天下りのような副知事人事が福井県は繰り返されており、その発令が先に行われており、人事ありきの本末転倒として、否決しました。

議案の否決は、福井県議会史上、かつて教育委員の選任を不同意にしたこと以外はなく、以来49年ぶり、実質的な意味では初の議案否決となりました。

その後、1年は議長となり、全国議長会副会長にも選出され、多くの経験ができました。

APECエネルギー大臣会合で親しくなったカプニヤイ、在日ペルー大使との関係で、福井県ペルー友好協会も設立することができ、友好関係を築くことができました。

ざっくりとふり返ると、そんな4年間でありました。文字通りの「闘う県議会」となりましたが、めざしてきたようなものは「できた」と思っています。私にとっては、過酷なきつい4年間でした。

# 20年の議員活動をふり返って

町議会2期8年、県議会3期12年、通算20年の議会活動を終えようとしています。

「会社を辞めて、町会議員に出るバカがいる」といわれたのは34歳の時、あれから20年。

佐藤浩市に似ているといわれた紅顔の美青年も今では野球の野村監督に似ているといわれるようになり、高校卒業後、はじめて会った女の同級生から「見る影もなくなった」などといわれた。「お互い様だ」といったかったが……。

地域から、戦場に送られたコマンド(兵士)として、鍛えられ、闘い続けた20年のようでもあり、よくまあ殺されずに生きてこれたものだ、我ながら感心し、県議会3期、議長職も経験し、ほっと一息。この間のご指導・ご支援に心から厚くお礼申し上げます。

一人のなんでもない男を、議員に出し、育て、一

人前にするには、多くの人から水や栄養分の供給が必要で、一人の議員をつくるということは大変なことです。

「齊藤君、世に議員と名のつく者は履いて捨てるほどいる。町レベルの議会では決算書を見れる議員の数は、定数の1割程度ですよ」といって、使い古された「決算書の見方、考え方」という本をもってくれた人。

「齊藤君、首長というのは大勢の職員スタッフに囲まれているのですから、それをチェックするには、自分ひとりだと思っ、本気で勉強するんですよ。」

「議員たるべき者、一年のうち半分は本を読め。」  
そういった厳しい先輩たちは、あの世から、どんな厳しい目で、私を見ているかと思うと、ゾッとする。



議員年金は廃止。やればやるほど議員活動費は膨らみ、政務調査

費を加えても、収支など合わない。

議会といえば、最近では、ムダといわんばかりに、定数削減、歳費削減の合唱となるが、定年退職後の第2の人生を送る人や商売片手間にやっている議員ばかりではありません。このままでは、本気で、一筋でやる若い議員が出てこれなくなりそうです。

今から子供が生まれるというときに、私はサラリーマンを辞めて、議員に出ましたが、今のよう不確かな時代なら、おそらく尻込みしたでしょう。

質の良い行政を作るには、質の高い議員・議会が必要です。本気でやる若手議員を育てなければなりません。そうした見地からも、地方自治制度を考える必要があります。

## ■ 私の原点

もともと、政治家として大成しようなどという野心や野望があったわけではなく、「こんな大きい村にいて町会議員の一人も



出せない情けない村になつた」などといわれることが、青年団活動をやってきた者にとつては、耐え難い、屈辱のよう思え、「町会議員の一人ぐらいいつでも出せるわい」と青年の心に火がついた。

（幕末や戦争時に生まれていたら、まさききに血気に走って死んでいただろう）

誰が出て良かったのだが、子供の時から、だいたい役割分担というか、得て不得手が決まっていた、私の役割となつた。

しかし、いざ選挙をやるとなると大変で、「出てくれ」と要請されている時は良いが、「わかった」と返事をした途端立場は逆転し、「たのむ」ということになる。

「選挙に出る人間」として、集中砲火を浴びるようなことになる。双子を宿して大きなお腹を

抱える女房は毎日泣くは、私も緑色の胃液は出るは、「こんなことならやるんじゃないか」と随分後悔したが、神興に乗ってしまった以上、いくら乗り心地が悪くても担ぎ手がよろさない限り、乗っているのが任務、勝手に飛び降りるわけには行かない。

担ぎ手も担いだ責任があると、艱難辛苦に耐え、見事に担ぎきって、選挙戦に突入した。

「や」と選挙ができる、私が出陣式でマイクを握ったとき、それだけで泣いていたものがあった。宣伝カーに乗ったとき、運動者の同級生に「やったなあ、や」と選挙ができるんやなあ」と握手して喜び合った。

当選するかどうかより、選挙にでるところまで、持ちこたえられるかどうかの方が大きかった。

村から出て、畑にさしかかると、第一声を大声で叫んだら、ヒューズが飛んで、また村に戻ってきた。

雪の降りしきる中、シヨッピ

ングセンターで街頭演説をしていたら、ポケットベルが鳴って、「選挙は終わった事務所へ帰れ」ということだった。

この時の選挙は、結果的に無投票となり、やっとな選挙ができると思つたのに、わずか数時間で終わり、選挙の票もわからず、何だか空しさが残った。

そうやって、最年少の町議会議員となったものの、団体戦の選挙は良いが、議会にいけば一人。

ある喫茶店のマスターから手紙が届いた。「新緑君、選挙の票が見れずに残念だろうが、あなたを応援した人は何百人もいることを忘れないでほしい。私らの仕事は何も役所に頼むことはないが、頑張ってくれ。議会に行けば一人だが、決して古い議員に染まらないように」と。

「若い者ではダメだ」といわれるか、「若い者でなければダメだ」といわれるかは、私の責任だと言いつつ聞かせ、有権者の代議員としての発言と報告は最低の義務だと思つて、基本活動としていくことと

「若くはつた修羅場が違うぞ。暇や冗談で議員になったんじゃないぞ、民間企業の営業最前線の現役バリバリが町会議員に専念したらどうなるか、日本一の町会議員になる」と、力んで議会に乗り込んだものの、一年も経たないうちに、イヤになった。とんでもない所に来ってしまったと思つた。



初議会のとき驚いた。提案はすべて町長で、一般には、どちらともいえない判断できない時には「保留」というのがあるが、議会では、賛成か否か、○か×をつける役目しか与えられていないことを知った。

議員というのは、町長の政策ブレーションというのか、提案を一緒に考えたりして、もつと政策に絡めるものかと思つていた。

昼飯にカレーライスかどんぶりをかを選択するような、どっちでも良いものなら○か×で良いが、全体や将来構想が見えずに、髪の毛一本が提案されても、賛成か反対かなと言いがけない。

雨が降った場合どうするのか、傘にするかカッパにするか、気温が高ければビール、寒ければ熱燗、すべて

に条件があり、単純なものでない。毎回のよう議案を軽視だとか文句は言っているにもかかわらず、議案に反対すれば町長不信任になるとか、半目になるとかいつて、議案は賛成することが当たり前となつてきた。

「ダメなものダメ」というのが議会であり、何でも賛成で起立するならば、議会などいらないし、そんな役目なら、うちのばあちゃんにでもできると思った。

NOといえない議会など、意味もなく、軽視されるのは当たり前だと思つた。しかし、一人だけ反対しても、これまた、議案の可否に影響はなく、変人になるよりも、まず、私に対する信頼を獲得することを先決に考えた。

それでも、毎回、指摘し、発言するなど、議員として頑張れば頑張るほど役所内の空気は冷ややかになった。町長とドンパチ議論した後などは、若くして議員になったこと事態がえらそうだと言われたのに、さらに拍車を掛けた。

「毎回何でもかんでも発言するな」といわれる一方で、「若いのに期待したのに、がっかりだ。もつとガンガンやれ」といわれ、私を応援した人が正反対の立場について、誰の言う

ことを聞いてよいのやら、このままでは、次の選挙は落選すると思つた。

しかし、そう覚悟したとき、開き直りができた。みんなには悪いが、この4年間は私がもらったものだ。

どうせ落選するのなら、自分が正しいと思つていようと、やりたいことをやって、落選しようと思つた。

議会とは何のためにあるのか、議員の任務とは何か、いつもその原則を見失わないように行動した。

2回目の町議会選挙は、最高得票で当選させてもらった。

■ 役所の議会部

議会は、行政をチェックする独立機関ではあるが、役所の中に議会事務局があり、事務局長以下の職員は、議会が雇っているのではなく、役所の職員が人事異動で配置されるもので、何年かすれば、戻つて、また、首長の下で仕事をやる立場である。

議員が議会事務局まかせにして、「円滑な運営」をすれば、まさに首長に都合の良い「議会対策部」、役所の中の「議会部」と

いう部署になつてしまします。



「円滑な運営」「スムーズに流れる」、メディアはすぐ「議会が紛糾」もめていたを演出するが、時間通り進まないほど議論することは大事。

根回しをして結論を決め、答弁のすり合わせをして議会を運営するというのは八百長。実力のないもの同士がやること、弱者同盟ともいわれます。

メディアの報道姿勢

県議会になると、新聞・テレビ中継など報道されます。石川県の「北国新聞」では、両面見開きで、丁寧に記載されます。

私は、メディアというのは、権力チェックする任務があり、議員の任務と同様な視点がある思っています。

もちろん、公平・公正・中立を前提とイメージします。しかし、前記したように、議論伯仲で、議会が予定通りの運営でない、「議会がもめた」として、スケジュールどおり進まないことが、あたかも悪いことのようなイメージを与えます。自分たちが記事を書く段取りが狂うからかもしれません。

役所の情報をもらいたいかから、役所に都合の悪い記事が抜け、役所の立場で書いていると思われるときがあります。

一方で、「議会の活性化を言いつつ、私たちが地産地消推進条例を提案すると、「無知な議員がいい加減な条例を作るな」というトーンの記事になり、「副知事二人」議案を否決した時は、「議会が内部でもめていた」ような全く、大筋とは関係のない記事となりました。

さすがに、この時は、私が幹事長だったので、執行部全員で、新聞社に抗議に行きました。

政務調査費を一円から領収書をつけて、公開するように議会改革しましたが、そのとき、「斉藤さんは、なぜ、こんなに本代が多いのですか？、そんなに本を読む必要があるのですか？」と、本を

読んで勉強すること

が悪いことのように、電話をしてきた新聞記者がいます。

そんなレベルの記者に、地方議会がどうのこうのと記事を書かれたくないと憤りを覚えました。

■ お役所の性格

お役所は、特異な一社独占企業です。単に倒産しない、クビにならない民間企業としてでな

く、税金を吸い上げ、配分する力を持つため、昔のお代官様が陳情を受けるような、「お上」思想の文化を継承しています。

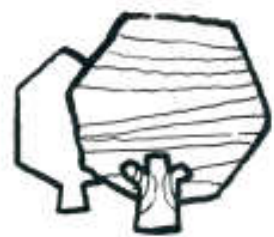
離れ小島に一軒しかない床屋が虎刈りしかできなくても、はさみやバリカンがそこになければ、やむなく行かなくてはなりません。文句を言おうものなら、「仕事をしなさい」とはねつけることも可能となります。

どこの会社でも、一人ひとりの社員の行動は、上司の命令に従って与えられた仕事を忠実に実行しているわけで、その会社に評価され、昇格、昇給するように行動します。

中央官僚が上司の天下り先をみつけると評価され、出世するとなれば、国民そつちのけで、その仕事を重視するでしょう。

前例に従つて、問題意識を持たず行動することが評価されるなら、誰も何も考えず、余計なことをせず、当たり障りのない仕事をします。

その結果、見渡せば、あとは野となれ山となれ、問題先送り、その場限りの事務的、無責任な仕事や、予算を消化するだけで、成果は上がらず、多くの負の遺産を抱える姿が見えます。



■ 議会の使命

行政は、国も地方も自浄能力がなくセルフコントロールできないといわれています。

自治体行政というのは、総じて不透明、ルール化されていないと恣意(思うがまま)が働きます。

分権したときに何が重要かといえれば自治体の質、とりわけ議会の質を高めることが一番大事だといわれています。

地方自治の主役は住民であり、ものを決めるのは議会です。

しかし、総務省の人は執行機関が最終責任と見て、議会は民主主義のアクセサリーとして必要としか見ていないという声もあります。

議会が軽視されるのは、議会感を感じない議員のミッショ(使命感)が少なく、ミッジョンを誤つていたり、見失つていたりする議員がとて多いからだといわれます。

たとえば、首長を支えなければならぬ。条例や議案が粗末でも、あるいは他にもつとすぐれた選肢があつても、首長が提案したものは何が何でも通



してやるのが与党の任務といった間違つた考え方を持った人も多い。

議会対首長という、与党対野党の対立構造のミッジョン感覚を持つた人を議員として選ぶことが大事だと指摘されます。

より良い行政をつくるために

面白い発想と構想力をもつた素晴らしい職員に出逢うことがあります。しかし、往々にして、出世が早いとはいえませんが、能力のない上司の下で疎まされたのかもしれない。

問題意識を持ち、やる気を持つ人ほど、役所内で苦悩する姿が見えます。

いい人材が生かされていません。上手く使えないのです。「最小の予算で、最大の効果をあげる」のが、行政の基本です。

役所の対応が、銀行や百貨店の窓口対応になる日は待たせても来ません。「役所の中の正しさ」を見直させ、「行政を最大のサービス産業」とするために、議会があります。

# 発刊します。

# 「こんな汗をかいてきた。」

## さいとう新緑県議会3期12年の活動記録



### 「ほっとらいん」縮刷版

1999 (VOL26) ~ 2011 (VOL69)

地方自治は、「民主主義の学校」などといわれますが、議会とはどんなところなのか、議員とは何をしているのか、決まった事だけが事後報告されても、なぜそういう結論になったのか、ちつとも見えてこないし、わかりませんでした。

単なる報告では、行政の広報誌となってしまうから、必ず「私はこう思う」と書くことを心がけ、それによって、みんなに問題意識を持って考えてもらい、みんなが知恵や汗を出してまちを創る。それが自治の原点だと確信

するから、『ほっとらいん』発行を私の議員としての最低限の行動規範としてきました。とはいえ、文字に残すことは、かなり勇気のいることです。

書き手の力量もあり、能力不足を露呈したり、読み手に誤解を与えるようなこともあるでしょうし、のちに自分の判断が間違っているようなことだって指摘されるでしょう。

しかし、それを恐れれば、何も伝わっていかないわけで、多少のリスクを背負って、実行してきました。

「その国の政治は、その国の国民のレベル以上にはならない」といわれます。民主主義は、ともすると衆愚政治に陥りやすく、一歩間違えれば、烏合の衆、あるいは独裁政治となりかねません。一人ひとり、

しっかりと判断力を持つ有権者と、責任ある政治家によって成り立つものです。

県議会12年間も多くの皆様のご支援により、何とか発行し続けるこ

とができました。どれだけ県政の課題や議論など身近なものに感じていただけたのか、どの程度、問題点を共有できたのかわかりませんが、私の与えられた場所で、与えられた任務を果たす、『私の精一杯』として、ご理解されれば幸いです。

これまで、2期8年間(1~25号)の三国町議会時代のホットライン総集編「こんな汗をかいてきた」に続き、県議会1期4年間(26~39号)のほっとらいん総集編として「こんな汗をかいてきた・2」を作成してきました。今回、改めて、県議会3期分の「ほっとらいん」をまとめた「こんな汗をかいてきた。」(定価千円)を発刊することになりました。

是非、ご購入いただきまますよう、お願い申し上げます。

タイトルの「こんな汗をかいてきた」は、町議会時代、そば屋においてあった「ホットライン」を、東京から来た朝日新聞の記者が見て、「この町にも汗をかいている議員がいるんだねえ」と言っていたという話からつけられたものです。



## ほっとらいん

### 振込口座のお知らせ

#### ●口座名

「さいとう新緑ネットワーク」

#### 金融機関

・福井銀行三国支店  
(普)1195244

・花咲ふくい農協加戸支店  
(普)0333311

・福井中央信用金庫三国営業部  
(普)0289880

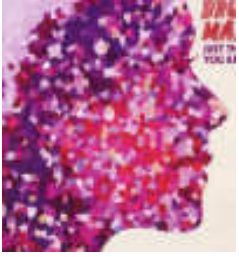
・北陸労働金庫金津支店  
(普)2372100

# さらば涙と言おう

詞 阿久悠  
曲 鈴木邦彦  
唄 森田健作

さよならは誰に言う  
さよならは悲しみに  
雨の降る日を待つて  
さらば涙と言おう  
頬をぬらす涙は誰にも見せない  
こらえきれぬ時には小雨に流そう  
さみしさも 悲しさも  
いくたびか出逢うだろう  
だけどそんな時でも  
さらば涙と言おう

青春の勲章は  
くじけない心だと  
知った今日であるなら  
さらば涙と言おう  
まぶたはらす涙はこぼしちやいけない  
こらえきれぬ時にはまっつけにためよう  
恋のため 愛のため  
まっすぐに生きるため  
泣けることもあつけど  
さらば涙と言おう



「お前、あんまり人が嫌がるよな」と言うんでねえぞ」。

議会の初日、気合を入れて、玄関を出ようとすると母はそういった。

「あのくお、それが議員の仕事なの」。議論している場合ではないので、さっさと飛び出したのだが、背中に視線を感じてふり返ると、母が手を合わせて立っていた。

議会が終わり、ほっとらいんを書き終えて、ほっと一息。つかの間の安息日。こんな20年の生活を送ってきた。

バブル崩壊後の「日本の失われた20年」といわれると、「私の失われた男盛りの20年」のようにも聞こえる。

書いて残すことは、かなり勇気のいることで、書き手の能力もあつて、誤解をまねきかねないが、恐れては何もできない。

▼議員の先輩から「齊藤君、そんなことをしても選挙の票には何の関係もないでな」といわれたが、「次の選挙」ではなく、議会報告するのが、議員の任務だと続けてきた。

見渡せば、朝早くから仕事に出て、疲れて一杯飲んで寝るのが精一杯の人も多く、有権者の代理人として議会に出ている以上、自分が勉強したことや読んだ本のエキスを書いて、これさえ読めば大体の

# 新緑の気ままにトク



ことはわかるというものができればと思つて書いてきた。

▼先日、「ほっとらいん」を配つて歩いたら、よく吠える犬がいて、どうせ玄関まで鎖は届かないのだと、あざ笑つて玄関のチャイムを押ししたら、犬もちゃんとついてきて不覚をとつた。スーツのズボンを引き裂かれた。

思い出がある。

町議会時代、日曜日になると、村の友人たちに手伝つてもらつたが、娘たちも動員して配達した。

「おいしいラーメンを食べさせてやる」とか、「親子丼って知ってるか」などといって、小学生の娘たちを連れ出した。そのとき、次女が運動公園で犬に噛まれ、宮崎病院で何針か縫つてもらつた。

なんとという父親かと、さすがにつらかった。「お父さんに遊びに連れて行つてもらつた記憶がない」という。

「仕事が遅くなる」という女房の代わりに県立病院の保育園に娘たちを迎えに行った時のことだ。保母さんと仲良く出てきた二人の娘が、私の顔を見るなり、大声で泣き出して、部屋に戻つてしまつた。父親が、幼児虐待か、

まるで人さらいのようで、かつこ悪かつた。

雪の降りしきる中、腰を曲げた変なおばあさんがチラシを配っていた。何かと、近づいて見たら、「お前が選挙に出て、こんな木っ端、何もできんぞな」といつていた我が母親が「ほっとらいん」を配っていた。

胸がはりさけそうだった。「お前は母ちゃんを殺す気か」、姉たちの罵声(ののしり)がこだました。鴨(鴨)小学校の同級生の家にみかんを三つ持つて頼みに来たという話も聞いた。

話し相手は、田んぼと畑、友だちは仏さんという母には、さぞつらいことだったろう。

▼金と時間を費やし、苦勞しての「ほっとらいん」ではあるが、読まれているのかどうか、何の反応もなく、書いておいたことを質問されたり、下足箱の下に落ちていたのを見て、情けなくなつたこともあつたが、「8面から読んでます」、「1面が好き

です」、「いつも楽しみに待つてます」、「あなたの新聞はニュートラで一番良い」などという声をかけてもらつて勇気をもらつたことは数知れない。

中には、「主人が『ほっとらいん』のファンだったので、いつももらうたびに、仏壇に飾つてから読んでます」という方もおられて、そこまでしてもらつと、缶ビール片手に書いて、何だか罰当たりのよう、恐縮してしまふ。

「仕方ねえですよ。所詮、小さな決意とひ弱な志でしかなかつたんですから。愚痴を言つても詮(詮)ないことです。貫くしかありません。そんなに人生を深刻に考えなさんな」という目で、慰めてくれたオス猫のミースケにも感謝しよう。

▼「どこにでもいるような、どうでもいい議員なら、私が辞めるように言います。私が好き(好き)んで選挙をやつてるとでも思つているの」という女房には、いつも励まされた。

「何で眉間にしわを寄せ寝てるの」と女房に聞かれ、何を悩んでいたのか考



えて見ると、ブッシユの戦争であつたり、地球環境問題だつたりと、世界や人類を相手に、勝手に、身もたえし、悶絶(もんぜつ)の一夜を過ごしてきただけのことだつた。

考えて見れば、この間、自分の家のことで悩んだり心配したことなど一度もなかつた。

家族に恵まれた。すべて女房殿のおかげです。

あなたといっしょになれて、私は、最高に幸福です。(どうか、お体に気をつけて、最後まで選挙よろしくお願ひします。)

▼人間には持ち時間があつて、それを使い果たすのがいつかはわからない。

とつておきの言葉や詩も出し惜しみなく、使つてきた。

どれも丹精をこめたつもりだが、20年最後の「ほっとらいん」はさすがに様々な場面が蘇(よみがえ)り感慨深い。

多分に、独りよがりの点もあつたのだから、あなたと私の「ホットライン」の回線がつながつて、「ほっと一息」してもらえたなら、至福の欲びである。

多くの激励に心から感謝申し上げます。当選できたら、また、書きます。また、お逢いできますように。

20年のお礼を申し上げます。ありがとうございます。いました。

梅一輪、一輪ほどの暖かさ